



久喜市内でも、身近な地域で誰もが気軽に集まり、自由な活動を通じて孤立防止や仲間づくり・交流を深めるための取り組みが、さまざまな地域で進められています。その中でも、久喜東6丁目ではさまざまなお互いの取り組みが紹介されています。今回ご紹介いたします。

### みんなで支える地域の活動

久喜東6丁目自治会では毎月のように行事があります。71歳以上を対象としたシルバー懇親会、ゴミゼロ運動後の芋煮会、子どもたちが喜ぶもちつき会など、エネルギーに溢れた活動を行っています。シルバー懇親会は今年で26回目となり、多くの地元の高齢者が集まり、盛大に執り行われました。

地域活動には、協力者が欠かせません。自治会長を中心に住民が役割を意識しながら、自ら進んで準備をしています。

久喜東6丁目が高齢者を地域で支える取り組みとして力を注いでいる、「ふれあい・いきいきサロン」に注目してみました。



### あったらいいね、を実現

多くのサロンは、運営を支える人と、参加する人に分かれていますが、平成25年11月から始まった「東6丁目ふれあい・いきいきサロン」では、参加する人も「お互いさま」の考えをもって運営を手伝っています。

この地域は一斉に住宅が建てられ、同じ時期に引っ越してきた方が多かったことから、昔から近所付き合いも盛んだったそうです。元々地域に手芸などのサークルがあり、「お茶飲みの場があったらいいね」と話題が上がったことがサロン開設のきっかけとなりました。

活動は月1回で、楽器演奏のボランティアグループを招いて、音楽を聴いたり一緒に歌ったりしながら楽しく過ごす日もあれば、講師を招いて介護予防や空き家対策について学ぶ日もあります。いずれも終わった後にはお茶やお菓子を用意して、みんなで喋りをしながら楽しく過ごしています。参加者は、「日ごろから外で会えばお喋りはするけれど、毎月サロンで過ごす時間が楽しみ」と話していました。運営を支える方は、

「昔から近所同士で助け合いができていた地域だけど、サロンによってさらに風通しがよくなり、地域の結束力が強くなったと感じます」と話していました。

### 「できる範囲」でやりがい

このサロンのお手伝いは毎回番制で、「次回は余裕があるから手伝えそう」と思った参加者は、当番表



に名前を書きます。自分ができるところの役割を担うことで、普段とは違った充実感を得て活動することができます。学んで楽しむだけでなく、「自分でも何か役に立つことをしたい」という意欲を生む役割も、サロンが担っています。

「あったらいいね」で始まった、笑顔溢れるサロン活動には、無理なく、楽しく、いつまでも続けられるような工夫がありました。

いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくために、皆さんもお互いさまの活動を楽しんでみませんか。

問合せ 高齢者福祉課高齢者福祉係 (内線3278)

